



幕別町立糠内小学校

教諭 國木 彩友美

わたしの 学級経営

～保護者とのつながり～

■はじめに

学級経営力を高めることは私にとって重要なテーマです。私が学級経営を行う中で重視していることの1つに、「保護者とのつながり」があります。ほとんどの先生は、使命感が強く、目の前の子どものために必死で頑張っています。しかし、どんなに授業力があっても、子どもたちの信頼を得ていても、ふとしたことで誤解され関係がこじれてしまうときがあり、学級経営が思うようにうまくいかなくなることもあるのではないのでしょうか。

誤解されてしまうのは、「こちら側の思いが正しく伝わっていない」「保護者側の思いを正しく理解していない」からなのではないだろうかと考え、担任の思いを伝えたり、保護者の思いを聞いたりする場や機会を大切にしています。保護者が味方になってくれたら、こんなに心強いことはありません。今回は、「保護者とのつながり」について、大切にしていることをお伝えします。何か1つでも参考になることがあれば幸いです。

■保護者からの相談を

チャンスに

保護者から、子どものことで相談をされることはありませんか。相談があるということは、何らかの心配事やトラブルがあったということです。対応を誤れば、保護者からの信頼を失うだけでなく、大きな問題に発展する可能性もあります。ピンチをチャンスにということがよく言われますが、まさに保護者からの相談は、信頼を得るチャンスだと私は考えています。

(1) 迅速に行動を

保護者から相談事があったら、どんなに軽くみえる内容でも、丁寧に対応しています。やつとの思いで相談している方もいます。どんなにささいな内容でも誠実に対処することが大切です。できるだけ早く、遅くとも24時間以内を心掛けます。すぐに回答できない場合は、何かしらの動きをしていることを具体的に伝え、期限も示すことを大事にしています。

(2) 組織で動く

簡単な質問程度ならばよいのですが、不登校やいじめなどに関する相談の場合、担任個人ではなく、組織で動くことが基本です。「校長にも既に報告済みです。すぐに対応します」と言われた場合、感じ方が違いますか。保護者も校長にも伝わっているのか、それならば安心だと感じるのではないのでしょうか。

担任の思いを伝えたり、保護者の思いを

聞いたりする場や機会を大切にします。



個人懇談 あいごうございました

お忙しい中、懇談のためにお時間をいただき感謝申し上げます。
来しと和やかな雰囲気の中、入学式、始業式からの子ども達の様子や頑張りを中心に懇談できたことをうれしく思います。短時間ではありましたが、すてきな環境で子ども様達がすくすく育っていること、そして学校でも楽しく過ごしている様子を共有できました。懇談会の話題をいくつか紹介します。

話題①

宿題に一生懸命に取り組んでいる。
でも集中力が続かないor時間がかかる

「家に帰ったら宿題(課題)に取り組む」こと、これは小学校の低学年の段階から大切にしたいことです。プリントは20～30分できるもの準備していますが、ダラダラしてしまうと1時間かかる場合もあるかもしれません。わからないと泣く子もいるかもしれません。まだまだいろんなものに興味津々、目に入ったものや耳から入ってきた情報に心が奪われ、今しなければならぬことが2の次、3の次になる子どもも多いでしょう。「うちの子、集中力がなくて…」これは、全家庭の共通の悩みです。ということは、「子どもは集中が続かないのだ」と割り切り、周りの大人がサポートしていくことが大事だと感じています。「できないのがあたりまえ」です。



「その後お子さんの様子はどうか」という連絡を入れるなど、ちょっとした心遣いが安心と信頼を生み出す。この一時間を掛けることで、「その後のフォローまでしてくるのだ」と相談前よりもぐっと信頼感が増すことでしよう。

(3) 着地点を共有
相談事を聞いて、それに反応するだけの対応で終わっていないでしょうか。相談事の着地点、ゴールの確認が不足すると、「変わらない」「思っていたような対応ではなかった」といった不満が募り、こじれるケースもあります。相談事があつたら、どうしてほしいのか、それを具体的に聞くことです。

(4) アフターケア

■学級通信の効果は絶大!

学校の様子を伝えるのに効果的なのが学級通信です。学級通信を通して、子どもの様子を伝え、担任の想いを伝えることで、保護者にとって「子どもを知る」「学級を知る」「学校を知る」ツールとして価値あるものになれば、プラス100の効果があると考えています。学級通信で特に効果的だと考える内容を2つ紹介します。

(1) 授業の様子を伝え、安心感を

保護者に授業の様子を伝えるチャンスです。授業の様子を発信することは、教師の専門性や子どもの学習の様子・課題を伝える意義があり、保護者の安心感へとつながります。過去に好評だった記事は次の4点です。

- ①学習のねらい(求められている学力)
 - ②子どもたちが苦手な問題(実際に紙面上に載せる)
 - ③子どもたちの記述(感想や解答)
 - ④担任の指導方針(子どもの成長したエピソードとともに)
- 学校で一番長い時間を過ごすのが授

業であり、子どもの成長を支えるべきところでもあります。保護者の「何をしているか分からない」という思いになるべく少なくすることで、保護者に安心感を与えることができます。

(2) ネガティブなことも共有を

私は学級通信を、学級で起こったトラブルや問い合わせ、悩みを共有する場として活用しています。担任としてどう対応したのか、どのような回答をしたのかという説明責任のための資料とも言えます。学級通信を握りしめて来校する方が過去に何人かいました。何か気に障ることを書いてしまったのかとはらはしましたが、「ここに書いてあること、私も前からそう思っていました」「ここについて、もっと先生と話したくて…」と保護者からうれしい言葉を頂きました。学級のことをありのままにさらけ出す勇気も大切だと感じた瞬間でした。

■おわりに

私は、保護者からの相談事・苦情な

保護者と同じベクトルで子どもの成長を

見守るという姿勢を見せる。

どは、自分の学級経営に足りない部分を気付かせてくれる機会だと思っています。謙虚な気持ちで、前向きに対処していくことで保護者との距離は縮み、信頼を得ることができると信じています。私は保護者との出会いに感謝し、人とのつながりを大切にしています。保護者と同じベクトルで子どもの成長を見守り、サポートしていくことで、子どもたちのつながりも深まっていくでしょう。保護者が味方になれば、子どもも必ず味方になります。そう思うと保護者との関わりも楽しくなります。

